



稲作農家 各位

山武稲作情報 第1報

(2020年5月25日発行)

山武農業事務所 改良普及課
 電話 0475-54-0226
 FAX 0475-52-7914

昨年は大きな気象災害があった上に、現在、新型コロナウイルス対策のため活動が制限されており、このような中で稲作の継続を図られている生産者の皆様に深く敬意を表します。高品質米の安定多収の参考にしていただくために、今年度も稲作情報を発行します。

山武地域の生育状況

4月下旬以降の高温多照傾向により、特に4月25日頃に移植したほ場では葉令の進みが早く茎数が多い傾向です。茎数確保が順調なほ場では5月下旬に中干し開始適期を迎える見込みです。一方、スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が多く、発生密度や防除の効果によっては大きな被害が見られます。また、ほ場によっては強風等による生育抑制も見られます。このようなほ場では浅水管理により早期の茎数確保を図りましょう。

表 作柄調査ほの調査結果（調査日5月20日、平年値は過去10年（成東育成地は7年）の平均値）

品種	場所	年	移植日	葉令	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)
ふさ おとめ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	7.5	25	14.7	271
		2019	4/25	6.3	23	11.6	215
		平年値	4/26	6.3	25	12.1	221
	山武市 (白幡)	2020	4/29	6.5	24	6.9	149
		2019	4/26	5.8	24	4.0	83
		平年値	4/27	6.2	25	7.8	138
ふさ こがね	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	6.6	24	13.8	259
		2019	4/25	6.2	22	11.5	213
		平年値	4/26	6.2	24	11.5	209
	山武市 (井ノ内)	2020	5/2	5.7	24	7.9	124
		2020年から新設のため平年値、前年値無し					
コシ ヒカリ	山武市 (成東 育成地)	2020	4/24	6.7	28	11.4	213
		2019	4/25	5.4	24	9.8	181
		平年値	4/26	5.7	26	10.3	187
	東金市 (幸田)	2020	5/2	5.0	28	5.0	90
		2019	5/4	5.6	28	6.4	109
		平年値	4/26	5.8	32	7.3	129

「粒すけ」は第2報から掲載します

【飼料用米】 品種	場所	年	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)
アキヒカリ	山武市	2020	4/26	28	11.1	179
夢あおば	山武市	2020	5/15	—	4.3	70

おねがい

田植えが終わってからも飼料用米に変えることができます。飼料用米の取組に御協力ください。御協力いただける方は、住所地の市役所・町役場等まで御連絡ください。

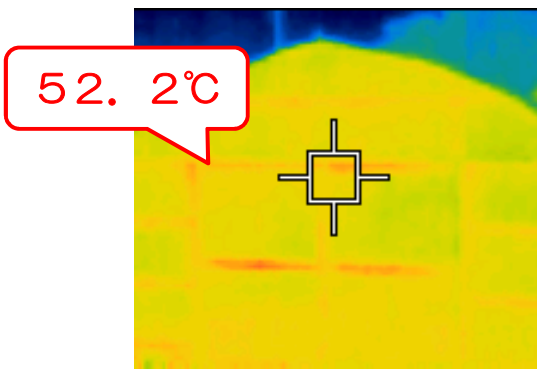
今年の育苗を振り返って

3月下旬から4月下旬にかけて平年より最低気温（夜温）が低い日が続き、生育の停滞が多くみられました。また、ピシウム属菌及びフザリウム属菌による苗立枯病の症状も見られました。

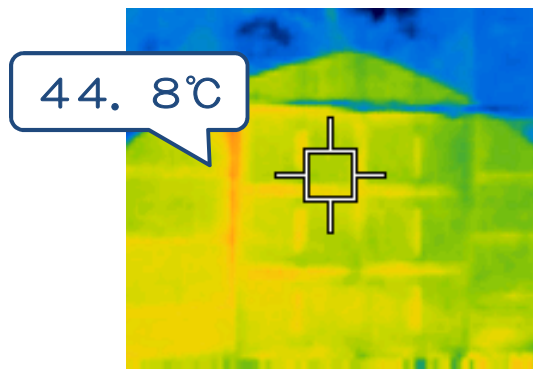
一方、日照時間は平年よりも長く、高温による「やけ」症状が多くみられました。令和元年台風15号の影響でビニールを張替えた育苗ハウスなどで、換気不足により40℃以上の高温になったことが原因と考えられます。



「やけ」による発芽不良



【張替え初年目のハウス】



【張替え4年目のハウス】

* 並列した2棟で、前日から閉め切った15時時点のハウス内温度を測定しました。

育苗管理のポイント

- 種子消毒の徹底により病害発生を予防する（化学農薬の浸漬は水温 10～15℃で実施）
- ハウス内温度は、**気象条件やビニール・被覆シートの劣化具合によって変動**します
⇒従来の方法にとらわれず、**温度計の数値**に応じて管理しましょう（下表参考）

出芽期			緑化期			硬化期		
方法	期間	温度	方法	期間	温度	方法	期間	温度
育苗器	2日間	30℃	ハウス内			ハウス内		
ハウス内 積み重ね	4～5日間	昼間30℃ ↓↑ 夜間10℃	[夜間は シートで 保温]	2～4日間	昼間25℃ ↓↑ 夜間10℃	[低温時は シートで 保温]	2.0～2.5葉 になるまで	昼間25℃ ↓↑ 夜間6℃
ハウス 平置き	5～10日間							

シート内（床土）の温度を **30℃以下** で管理するのがポイント！！

コラム① 除草剤と土性の関係 ～砂壤土での使用の注意点～

除草剤のラベルに「薬害のおそれがあるので**砂質土壌**での使用は避けてください」という表記がある場合があります。「砂質土壌」は砂目が強く減水深の大きい水田を示し、成分が土中に浸透して稲の根から吸収されるので、薬害が発生しやすくなります。

九十九里地域の水田に多く分布する**砂壤土**では、薬害のおそれがあるので使用に当たっては注意が必要です。

①減水深が2cm/日以上の水田、②用水を確保しにくい水田での除草剤の使用は避けましょう。また、苗質や気象により活着が不十分な場合や、植代が硬く植穴が戻りにくい場合は、雑草に効果がある範囲かつ使用可能な時期まで散布を遅らせましょう。

次回の情報は6月4日（木）に発行する予定です。